

令和4年度 百合丘高等学校学校 年間指導計画

教科・科目	地理歴史・世界史B	学年	3	教科書	『世界史B』(東京書籍)
		単位数	4	副教材	『グローバルワイド最新世界史図表 四訂版』(第一学習社)

学習目標
世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき、地理的視点や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を幅広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民の自覚と資質を養う。

学習方法
○世界の各文化圏の流れを追いながら歴史的事項や人物像を理解して、歴史的視点や思考の能力を養います。
○文字史料や写真、映像等の史料を活用し、歴史的事項の把握とその問題点を考察します。
○学習した事項を手がかりにして、現在の世界で発生しているさまざまな事象や課題について考察します。
○地理的背景や日本史との関連に留意して世界の歴史の多様な文化や社会の特質を学習します。

学習評価	評価の観点		科目の評価の観点の趣旨
	a	関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究している。
b	思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見出し、国際社会の変化を踏まえて思考し、公正な判断を行い、適切に表現している。	
c	資料活用の技能	世界の歴史の展開に関する諸資料を収集し、考察の過程や結果を、適切に分析している。	
d	知識・理解	世界の歴史の基本的な事柄や事象を、日本史との関連付けや世界地理の視点などの視野に立って総合的に理解し、その知識を身につけている。	

学期	内容のまとめ	時数	単元(題材)	学習内容	評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
					a	b	c	d		
前期	オリエントと地中海世界	7	オリエントと地中海世界	古代オリエント・ギリシア・ローマ	○	○	○	○	a.古代国家の形成について、オリエント、ギリシア、ヘレニズム、ローマ等の諸地域におけるその過程や内容に関心を持ち、各地域の特殊性と共通性をふまえつつ、その文明の意義を意欲的に追究しようとしている。 b.オリエント、ギリシア、ヘレニズム、ローマの文明の比較やその文明の相違を的確に考察し、キリスト教の特質やその発展の意義を歴史的視点から思考し、適切に文章にまとめている。 c.歴史地図や年表、石刻等の資料を活用して、各地域の都市や国家、統一帝国などの歴史的流れや内容を把握している。 d.古代国家の形成についてオリエント、ギリシア、ヘレニズム、ローマの諸地域における歴史的解釈に関する基本的な知識を理解し、身につけている。	・定期考査 ・提出物 ・課題レポート、発表 ・授業への取り組み状況
			ヨーロッパ世界の形成	西ヨーロッパ世界の成立・東ヨーロッパ世界の成立西ヨーロッパ中世世界の変容・西ヨーロッパの中世文化	○	○	○	○	a.フランク王国とローマ教皇の提携の意義、ノルマン人等諸民族侵入の影響、ビザンツ帝国の特色とスラヴ民族の活動、西ヨーロッパの中世都市の発展や封建社会の変容について関心を持ち、学習しようとしている。中世文化の特色とキリスト教会の役割について意欲的に学習しようとしている。 b.地中海世界の解体をゲルマン大移動やイスラム勢力の進出と関連づけ、封建社会の仕組みとその変容やローマ教皇権の発展を多角的にみて、ヨーロッパの拡大を、国王の中央集権化と関連づけて考察し、文章にまとめる。 c.ゲルマンなど諸民族の移動図、荘園の構造などの概念図や図版・写真・資料十字軍と西ヨーロッパ勢力の拡大、中世都市と交通路といった地図を適切に活用し、教会建築や、当時の農民や都市の生活の様子を理解する図版などにより、中世ヨーロッパ社会の特色に触れることができている。 d.ゲルマン人やノルマン人等の諸民族の移動・侵入による影響、フランク王国とローマ教皇の提携の意義など、西ヨーロッパ世界の形成と発展に関する基本的な知識やビザンツ帝国やスラヴ人諸国によって形成された、東ヨーロッパ世界の多様性に関する基本的な知識を身につけている。	

広域世界の形成と交流	16	近世ヨーロッパ世界の形成	ヨーロッパ世界の拡大・ルネサンス・宗教改革・主権国家体制の形成	○	○	○	○	<p>a.新航路の開拓や征服と価格革命、商業革命、ルネサンスの背景と影響を意欲的に学習しようとしている。宗教改革の背景と影響、宗派による差異、ヨーロッパ諸国が主権国家として競合しつつ国際秩序を形成していった過程を、関心を持って学習しようとしている。</p> <p>b.大航海時代を世界の一体化や資本主義経済発達の基盤と関連づけ、ルネサンスを多角的に考察し、宗教改革やカトリック教会の革新を、世俗の政治秩序の変化と関連づけて考察し、文章にまとめる。ウエストファリア条約の意義や東ヨーロッパの動向を、プロイセンやロシアを軸に考察し、文章にまとめる。</p> <p>c.ヨーロッパ人の航路と探検図、世界地図やアステカ征服の図版、ルネサンス期の文化と美術の一覧表、新旧両教派の分布地図や「九十五カ条の論題」などの資料、図版を適切に活用している。</p> <p>d.大航海時代の探検・征服事業の過程やルネサンスの意義やその具体的な文芸と美術、ルター、カルヴァンによる宗教改革の拡大、イギリスの改革、対抗宗教改革に関する基本的な知識を身につけている。15世紀末からヨーロッパ諸国が主権国家体制を確立していった過程に関する基本的な知識を身につけている。</p>
	17	近世ヨーロッパ世界の展開	重商主義と啓蒙専制主義・ヨーロッパ諸国の海外進出・17～18世紀のヨーロッパ文化と社会	○	○	○	○	<p>a.イギリス革命やフランスを中心とした国家間の抗争、アジア市場とアメリカの植民地をめぐるヨーロッパ諸国の抗争の過程に関心を持って学習しようとしている。科学革命と啓蒙思想を背景とする文芸について意欲的に学習しようとしている。</p> <p>b.17～18世紀の西欧諸国の活発な経済活動と植民地抗争を、重商主義と関連づけて考察し、大西洋で確立した三角貿易が西欧強国にもたらした莫大な利益を、産業革命の前提条件である資本の蓄積と関連づけて考察し、文章にまとめる。</p> <p>c.18世紀半ばのヨーロッパ諸国の領域をあらわした地図や図版、王家の系図や17世紀半ばのヨーロッパ諸国の植民地をあらわした地図、社会風俗の図版などを適切に活用している。</p> <p>d.議会政治の確立したイギリス、ルイ14世の時代のフランス、プロイセンとオーストリアの抗争等17・18世紀におけるヨーロッパ諸国の動向や大西洋世界に近代分業システムが成立したことに関して、基本的な知識を身につけている。</p>
後期	15	近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	産業革命、アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオン	○	○	○	○	<p>a.産業革命の世界史的背景と技術革新の進展、共和政の大国を確立したアメリカの独立と、その憲法の内容、フランス革命の経済的、思想的背景、及びナポレオンの政策と革命の継承点について、関心を持って学習しようとしている。</p> <p>b.資本主義体制の確立と社会の変容について考察し、アメリカ独立革命が提起した近代市民社会の原理、フランス革命とアメリカ独立革命の対比、ナポレオン戦争による国民国家の理念の波及について関連づけて考察し、文章にまとめる。</p> <p>c.産業革命期の地図や図版等の諸資料、「独立宣言」の抜粋の資料から、近代社会の原理に触れることができている。「人権宣言」やナポレオンの活動を表現した絵画や図版などを適切に活用している。</p> <p>d.産業革命が最初にイギリスで起きた理由、技術革新と資本主義体制が世界市場に与えた影響等、イギリスの北米植民地の状況、独立戦争の経過、フランス革命が起こった社会構造、革命の進展過程、皇帝ナポレオン誕生の背景やその大陸支配の経過に関する基本的な知識を身につけている。</p>

	15	欧米における近代国民国家の発展	ウィーン体制の成立、ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生、南北アメリカの発展					<p>a.ウィーン体制の特色とその崩壊過程、社会主義思想の成立、東方問題とそれに伴うヨーロッパ列強の対立、イタリア・ドイツの統一の背景や過程、アメリカ合衆国の西部への領土拡大が、独自の行動様式をはぐくんできていたことを学習しようとしている。</p> <p>b.1848年革命を社会問題と関連づけて考察し、ビスマルク外交に関して、第一次世界大戦に関連づけて考察し、イタリア・ドイツの統一と日本の明治維新との比較、アメリカ先住民や奴隷解放後の黒人への抑圧を現在の人種問題と関連づけて考察し、文章にまとめる。</p> <p>c.ウィーン会議後のヨーロッパ諸国の地図や絵画・図版を適切に活用している。イタリアとドイツの統一、ベルリン会議後のバルカン半島の地図や、写真・図版、ラテンアメリカの独立、アメリカ合衆国の領域拡大を示す地図や写真・図版などを適切に活用している。</p> <p>d.ウィーン体制を崩壊させたヨーロッパの自由・民主主義的な改革の動向、クリミア戦争とロシアの近代的改革、フランス第二帝政とその崩壊、イタリア・ドイツの統一とビスマルクによる協調外交、ラテンアメリカの独立の経過、アメリカ合衆国の西部への領土拡張、南北戦争後の発展に関する基本的な知識を身につけている。</p>
世界戦争の時代	20	第1次世界大戦	・帝国主義による世界分割の様相・アジアの民族運動の展開と第1次世界大戦・ロシア革命と大戦終結からベルサイユ体制の成立					<p>a 帝国主義列強によるアジア・アフリカの植民地競争による世界の支配の進展とその結果として起った第1次大戦への関心と問題の所在について意欲的な考察を深めている。</p> <p>bアジアの民族自決が戦後のベルサイユ体制の中でどのように変容し、かつその体制の中心である国際連盟の役割等の問題を考察し、その背景を判断している。</p> <p>c世界大戦の実相やロシア革命の展開に関する諸資料を活用してその実態を把握している。</p> <p>d第1次世界大戦とその前後の国際関係を歴史的視点から理解している。</p>
	10	ヴェルサイユ体制と国際秩序の再編	・世界経済恐慌と各国の対策・ファシズムによるドイツ、イタリアの台頭、日本の大陸進出と中国・ソ連の動向					<p>a世界経済恐慌の実態と各国の対策 について関心を持ち、その背景に関する問題を意欲的に追究している。</p> <p>b ファシズムがイタリアやドイツで如何に台頭してきたかを考察している。</p> <p>c世界恐慌の様相やドイツの再軍備の史料を読み取れている。</p> <p>d世界経済恐慌とその影響、ファシズム・全体主義や資本主義の変容、列強の植民地支配の転換等について基本的知識を身につけている。</p>
	12	第2次世界大戦・冷戦・現代の世界	・第2次世界大戦の実相とアジアの情勢・戦後世界秩序の構築と米ソ冷戦の発生・冷戦の推移と中華人民共和国の成立、朝鮮戦争の勃発・冷戦の終結から東欧の民主化・ソ連の解体					<p>a第2次世界大戦から冷戦にかけて現代世界を構成する諸要素について関心を持ち、その背景と戦後の在り方に関する問題を意欲的に追究している。</p> <p>b日本を中心とするアジアでの大戦の展開について考察している。</p> <p>c 世界大戦や米ソ冷戦の史料や映像からその実情を読み取っている。</p> <p>d世界大戦後半期から戦後の国際秩序の形成、冷戦に至る過程、及び中華人民共和国の成立について基本的知識を身につけている。</p>
合計時数(55分授業)	128							